

第3章 文化振興の取組み

- ◆ 1. 文化を「創る」「伝える」「支える」
人づくり 【基本目標1】
- ◆ 2. 個性あふれる文化のまちづくり
【基本目標2】
- ◆ 3. 新たな文化の価値・創造を支援
するための土台づくり 【基本目標3】

1. 文化を「創る」「伝える」「支える」 人づくり

【基本目標1】

(1) 子どもたちの豊かな感性の育成

子どもの頃から文化芸術に触れることは、単なる「娯楽」ではなく、豊かな人間関係や創造性を育み、学びの基盤づくりに大きく貢献します。そして、本市の将来を担う子どもたちが、豊かな社会を築いていくためには、豊かな感性を育む機会を確保することが重要です。そのため、学校や地域、NPOと協力し、子どもたちが文化芸術や歴史に触れる機会を提供します。

また、子どもたちだけでなく、その保護者も一緒に文化芸術に楽しんで関わることができるような工夫を行い、普段の暮らしに文化芸術が溶け込むことを目指します。

主な取組み	内 容
子どもの文化芸術鑑賞の推進	子どもたちの豊かな感性を育むため、多様な文化芸術を体験・鑑賞できる機会を提供します。
学校における郷土学習の取組みへの支援	子どもたちが、佐賀の歴史や伝統文化を学び郷土に誇りや愛着を持てるよう、「総合的な学習の時間」などを利用した出前授業や講座を実施します。
学校における文化芸術の取組みへの支援	子どもたちが文化芸術への関心を高められるように、文化芸術活動団体や芸術家などと連携して、ワークショップなどを取り入れた学校へのアウトリーチ活動を実施し、創造体験の機会を提供します。



■東名遺跡の出前授業（市内小学校）



■学校へのアウトリーチ事業

(2) 文化振興の担い手の育成

本市の文化を振興していくためには、多くの市民が関心を持って、文化に触れ、活動を行っていく基盤づくりが必要となります。本市では、さまざまな文化芸術活動や伝統芸能等が行われ、文化に関する講座なども行われています。これらの活動や講座などに、より多くの市民が参加できるよう取組みます。

また、自らが中心となって周囲に働きかけ、文化芸術の輪を広げていけるような人材の発掘・育成も計画的に進めていきます。

主な取組み	内 容
文化芸術活動や講座、伝統芸能などへの参加促進	<p>文化の担い手の裾野を広げていくために、文化芸術活動や講座、伝統芸能などへの参加を促進します。</p> <p>また、子どもや若者たちを含め多くの人たちが地域の祭りや伝統文化に積極的に参加できるよう、日頃から地域の人との交流を促し、文化活動に取り組むきっかけをつくります。</p>
文化の担い手の育成につながる支援	<p>伝統芸能や生活文化、また、地域固有の伝統文化や文化財といったさまざまな文化を将来に伝えていくため、担い手の育成につながるきめ細やかな支援を行います。</p>



■ 佐賀県指定重要無形民俗文化財
市川の天衝舞浮立

(3) 誰もが文化に親しめる機会の提供

本市では、市民が幅広い分野の文化に触れ、豊かな感性を育んでいくために、各文化施設で文化に親しむ鑑賞の機会を提供しています。今後も市民のニーズを把握しながら充実を図り、鑑賞以外にも、親子や家族などで学習や体験といった活動を行うことができるような場を提供します。

主な取組み	内 容
佐賀市文化振興財団や各文化施設の自主企画による催しの充実	新たな文化や最新の流行にも気を配りつつ、幅広い文化に触れることができるよう、さまざまな分野の鑑賞や体験の機会を提供します。
子どもや若者、高齢者まで、幅広い世代への文化芸術に親しめる機会と場の提供	障がいの有無や国籍に関わらず、また幅広い世代に向けてさまざまな分野の鑑賞や体験の機会を提供します。 小学校や公民館などを利用し、親子や家族で、また、子どもや若者が地域の大人たちとさまざまな体験ができるよう、環境づくりを促進します。
佐賀市民芸術祭の充実	若者主体のプログラムの増加やワークショップの実施、アール・ブリュットの取組みにより、文化を体験できる場を創出します。

コラム5 アール・ブリュットとは

フランス語で「生の芸術」を意味し、美術に関する高等教育を受けていないアーティストや、伝統的な芸術の枠組みに縛られないアーティストが創作した芸術作品を指します。技術的な完成度よりも、個人の感情や感性が反映された作品であることが特徴的な芸術で、アウトサイダー・アートと呼ばれることもあります。佐賀県内では関係するアート展が開催されており、各アーティストが心のままに表現した作品を楽しむことができます。



■ GENIUS展（佐賀市民芸術祭）



■ 関係するアート展 vol.5
（佐賀県主催）

(4) 国際交流と多文化理解の推進

あらゆる分野における国際化・グローバル化の進展にともない、多くの国の文化に触れる機会が増大しています。その中において、それぞれの国の文化を尊重し、受け入れることができる柔軟な心を育むため、姉妹都市や友好都市との交流の充実を図ります。

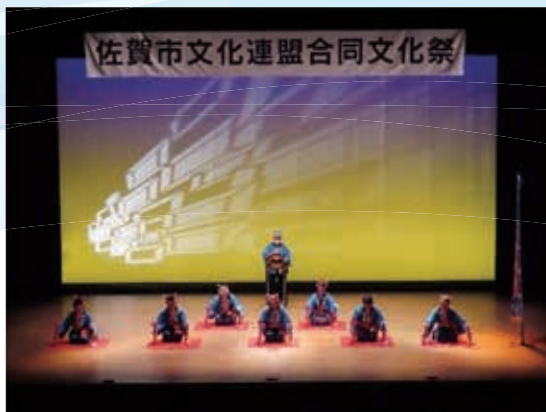
また、学校教育や地域の身近な場で、インターネット等も活用しながら、多くの国の文化を学習・体験する機会の提供に努めます。さらに、増加傾向にある定住外国人に対しても情報発信を行うことで、多文化への理解を推進します。

主な取組み	内容
姉妹都市・友好都市との交流の充実	各姉妹都市・友好都市との中学生や高校生の相互派遣を行います。
多文化に触れる機会の提供	国際交流員や定住外国人との交流を通して、多文化に触れる機会や学習の機会を提供します。

(5) 文化団体やNPOなどへの支援

本市では、数多くの団体や個人などにより、さまざまな文化芸術活動が行われています。これらの活動は、本市の文化を向上させ、文化の重要性や意義を市民に広く周知していく重要な役割を担っていることから、活動を行いやすい環境の整備や活動団体への支援を行います。

主な取組み	内容
佐賀市文化連盟への支援	総合的な文化芸術活動を行っている佐賀市文化連盟の活動を広報する支援を行います。
文化芸術活動への支援	市民が文化芸術活動を行うためのさまざまな情報の収集・提供を行います。



■ 佐賀市文化連盟合同文化祭

(6) 文化を伝える、支える人への支援

本市の文化を高め、広く文化を発信していくことができる人たちを支援し、市民への周知に努めます。

主な取組み	内 容
顕彰制度の充実	文化芸術活動の活性化や積極的な文化芸術活動への参加を促すため、顕彰制度を充実させます。
発表の機会の提供	活動意欲の向上を図り、更なる発展につなげるため、佐賀市民芸術祭などを充実させ、さまざまな発表の機会を提供します。



(オープニング JAZZ ステージ)



(栄光ステージ)



(フレッシュプラスステージ)



(SAGA CITY DANCE FES.)



(オオグシリュウハイの日本画体験)



(高校生パフォーマンス)

■佐賀市民芸術祭

2. 個性あふれる文化のまちづくり

【基本目標2】

(1) 地域における伝統文化・伝統工芸の技術の継承支援

少子高齢化や地域のつながりの希薄化といった社会情勢から、代々受け継がれてきた地域固有の伝統文化や伝統工芸に関する技術の保存・継承が難しくなっています。

伝統文化は地域コミュニティの醸成に必要不可欠なものです。また、世界に誇れる伝統工芸の技術を失うわけにはいきません。これらの文化・技術を確実に次世代に継承できるよう、市内に12件ある指定無形民俗文化財を中心にその保存・継承を支援します。

主な取組み	内容
地域文化や伝統工芸の技術の保存・継承支援	受け継がれてきた地域固有の伝統文化や伝統工芸の技術を保存・継承していくために、後継者育成や内容の記録・保存を含め、必要な支援を行います。
地域固有の伝統文化への参加や体験の充実	地域固有の祭り、行事などに積極的に参加を促すとともに、誰もが参加しやすいイベントなどを企画します。
地域間の文化交流などの促進	地域固有の祭り、行事、イベントなどの情報発信を行い、地域間の文化交流を促します。
歴史遺産の掘り起こし	これまであまり知られていなかった歴史遺産や歴史的人物の掘り起こしを行います。また、言い伝えや伝説などの活用を図ります。



■佐賀市の無形民俗文化財パンフレット



■国指定重要無形民俗文化財 白鬚神社の田楽

(2) 歴史遺産の保存と活用

本市に所在する数多くの歴史遺産について、調査・研究や評価を行い、文化財の適切な保存に努めます。また、佐賀城跡、東名遺跡、三重津海軍所跡をはじめとする歴史遺産を、地域の宝として、積極的に情報発信し活用を図るため、必要な施設の整備に加え、耐震対策や防火対策などの防災に関する取組みを行います。

さらに、これらの歴史遺産の大切さを市民に理解してもらうことで、地域での管理や活用の促進にも取組みます。

主な取組み	内 容
文化財の調査・研究や評価の充実	歴史遺産や伝統文化の調査・研究や評価を行い、本市にとって重要なものを文化財に指定し、適切な保存に努めます。 また、幕末佐賀藩の近代化産業遺産の発掘調査や文献調査を実施し、史実の解明に努めます。
文化財の公開・活用の充実	発掘調査現地説明会や企画展、シンポジウムなどを行い、文化財を広く公開・活用していきます。
東名遺跡の史跡整備、埋蔵文化財センターの整備	東名遺跡の史跡整備として、史跡地とガイダンス施設を一体的に整備します。なお、この施設は、佐賀市内各地から出土している遺物を保存・活用できる埋蔵文化財センターとしての機能を兼ね備えた複合施設として整備します。
地域住民への文化財の周知や協力の体制づくり、文化財所有者への保存管理意識の啓発	歴史と伝統に培われた貴重な歴史遺産を末永く後世に伝えるためには、地域住民の文化財に対する理解が必要です。そのため、適切な情報を発信するとともに、所有者及び地域住民の協働意識の醸成を図り、防犯・防災なども含め文化財の適正な保存管理意識の向上に努めます。
歴史的景観資源所有者への支援	貴重な歴史的景観資源の保存と活用のため、歴史的建造物の所有者などを支援します。



■国指定史跡 三重津海軍所跡
(ドライドックの渠壁骨格)



■文化財防火訓練の様子
佐賀城鯨の門及び続櫓

(3) 観光資源としての活用推進

指定文化財とあわせ、本市に分布している歴史遺産を広く市内外へ周知を図り、観光資源として活用します。経済効果への影響を考慮した環境整備や、まちのシンボルとなるランドマークの発掘などを行い、観光客誘致につなげます。

主な取組み	内 容
世界遺産などの積極的な活用	「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産のひとつである三重津海軍所跡を観光資源として活用し、関連施設である佐賀城本丸歴史館との連携や他の幕末佐賀藩の近代化産業遺産（築地反射炉跡、精煉方跡、多布施反射炉跡）とも関連づけた情報発信や活用を行います。 また、特別展やワークショップ、講座の実施により再来訪を促します。
案内サインの整備	市内にある歴史遺産などを市民や観光客に分かりやすく紹介するために、観光ルートを意識した案内サインの整備を計画的に行います。
市内の歴史施設・観光施設との連携	滞在時間の増加や周辺地域への周遊を誘導するため、歴史資産の近隣に所在する施設と連携した、モデルコースの設定を検討します。

(4) 企業、大学との協働による文化振興

本市には、多くの企業、複数の大学があります。地域における産・学・官・民が持つノウハウは、文化を振興するために貴重な資源となります。高い技術をもった企業や大学と連携を強化することで、本市の文化の向上を図ります。また、文化の分野との交流により地域産業の活性化を図ります。

主な取組み	内 容
伝統産業の活性化	伝統産業の価値を広く紹介することで、保存と継承を図り、地域の活性化につなげます。
地域産業の活性化	芸術家たちと産・学・官・民との交流により、地元産品の開発や人材の交流などによる、地域産業の活性化を図ります。
文化芸術の振興に向けた企業や大学との協働	企業や大学などと連携を図り、文化財の調査・研究や保存を行う体制を強化します。また、本市には複数の大学があり、文化活動に取り組む学生などと協力して、文化の振興を図ります。また、大学の研究活動等にも積極的に協力し、連携の強化に努めます。

(5) 身近な場で文化に触れることができる場所づくり

誰でも、気軽に文化芸術に触れることができ、かつ特色ある文化のまちづくりに関わることができるよう、環境を整備します。

また、街なかやそれぞれの地域で文化に関するイベントなどを実施し、地域活性化に貢献します。

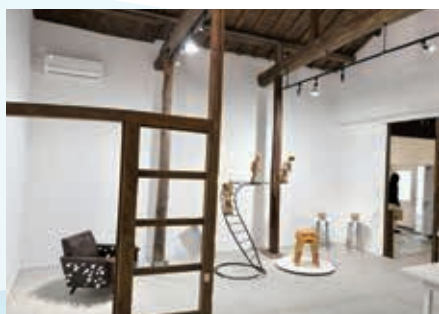
主な取組み	内容
文化施設の利活用促進	気軽に文化に触れる機会を提供するために、文化活動ができる既存施設の情報を市民に発信し、利活用の促進につなげます。山口亮一旧宅や旧枝梅酒造については、民間の事業者を活用してもらうことで、子どもや若者などが文化・芸術に触れる場や、地元の芸術家が活動できる拠点としての活用を図ります。
文化講座の実施	多様な歴史文化講座を実施することで、多くの市民に文化に触れる機会の提供を行います。
街なかなどでの文化交流の推進	市民の交流の中心である街なかなどで文化に触れる機会を提供し、交流の促進を図ります。
最新の情報技術を活用した文化活動の推進	近年ではデジタル技術のめざましい発展により、遠隔地からコンサートなどを楽しむことができるようになりました。市が主催する文化イベントでも最新の情報技術を導入することで、高齢者や障がいのある方など、自由に外出する事が難しい人も、気軽に文化に触れられるような環境を整備します。



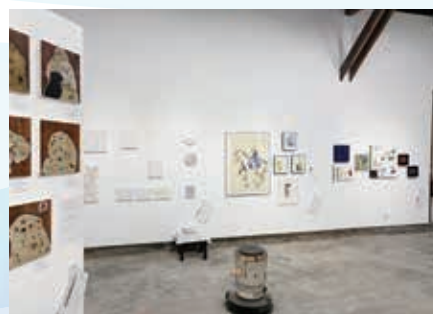
■山口亮一旧宅



■山口亮一旧宅の活用



■旧枝梅酒造の活用



(6) 利用しやすい文化芸術活動の施設などの整備

多くの市民が利用しやすいよう、施設的环境整備や交通アクセスなどの向上に努めます。また、令和5年(2023)にオープンしたSAGAアリーナとの連携を意識し、施設の整備と効果的な運用を進めます。

主な取組み	内容
文化施設の整備・充実	障がいの有無や国籍に関わらず、誰もが文化施設を利用できるように、施設の整備・運用を行い、発表や鑑賞の機会を提供します。 また、SAGAアリーナとの連携を意識し、施設の整備・充実を図ります。
各文化施設への交通アクセスの向上	来訪者が目的の文化施設へスムーズに行くことができるよう、交通事業者と連携して利便性向上に努めます。



■ミズ ウェルビー ホール (佐賀市文化会館)

3. 新たな文化の価値・創造を支援するための土台づくり 【基本目標3】

(1) 文化・芸術のプラットフォーム整備

文化芸術活動を行う個人同士や団体同士、さらには個人と団体を緩やかに繋ぐしくみづくりや、それぞれの活動に寄り添った支援を行います。また、文化の振興を通じて本市の魅力向上や経済の好循環を生み出すなど、文化に対する新たな価値の創造を推進します。

また、若手芸術家のチャレンジの場として、毎年秋に開催している佐賀市民芸術祭を活用するなど、日頃の活動の成果を披露できる機会や場所を提供します。

主な取組み	内容
文化芸術関係者同士の情報交換や、交流ができる機会と場所の確保	文化芸術関係者が情報交換や交流、日頃の活動の悩みなどを気軽に相談できるような機会と場所の確保に取組みます。
若手芸術家の活動を披露できる機会と場所の提供	佐賀市民芸術祭や文化会館・山口亮一旧宅・旧枝梅酒造などの施設内で、若手芸術家の作品などを披露できる機会と場所を提供します。
他自治体の支援事業の調査研究	効率的で効果的な支援を行うため、先進的な自治体の事例を調査研究します。
文化の新たな価値の創造	個人や団体の文化芸術活動が活発になり、相互に影響を与え合う中で、佐賀文化の新たな価値の創造につながるよう、継続的な活動支援に取組みます。
経済の好循環につなげる取組み	文化をより身近に感じられる工夫を行うことで、文化に対する需要や魅力をさらに高め、文化体験を目的とした観光客の誘致や、関連消費による経済活動を促します。

コラム6 アーツカウンシル

佐賀市では、市内で活躍するアーティストに向けた支援の実施を検討していますが、このような支援活動をアーツカウンシルという名称で実施している自治体もあります。一般的に、アーツカウンシルとは、文化芸術分野の専門家が、助成金の審査・決定、政策提言、調査・分析などを行う第三者機関のことを指します。例えば日本におけるアーツカウンシルの草分けである横浜市では、相談窓口や助成などの事業が実施されており、横浜市の文化振興において重要な役割を果たしています。

(2) 佐賀市文化会館を核とした文化振興の新たな取り組み

本市の文化の中心地である、佐賀市文化会館をその核とし、市民の文化意識が向上するような事業を展開します。

主な取り組み	内容
ネーミングライツ※のパートナー企業と連携した賑わいづくり	ネーミングライツのパートナー企業と協力し、文化会館周辺の賑わい創出のための取り組みを進めます。
佐賀市文化芸術人材バンクの充実・活用	佐賀市にゆかりのある文化芸術活動を行う人材の情報を収集し、人材バンクへの登録を進めます。また、登録された人材は、自主文化事業において積極的に活用していくことで制度の周知に努め、利用促進を図ります。
SAGAアリーナと連携した事業の展開	SAGAアリーナで大きなイベントが開催される時は、西側広場などを活用し、文化会館でも連動したイベントが企画できるよう、普段からアリーナとの情報共有や協力体制を構築します。
若者が集う空間の創出	文化会館の施設を利用し、若者が普段から訪れたいような、魅力的な空間づくりに取り組みます。また、自主文化事業についても、若者が集まる公演や企画を積極的に実施します。

※令和8年（2026）2月から2年間の契約で「ミズ ウェルビー ホール」の愛称に決まりました。

若者が集う空間の創出（他市の事例）



■高松シンボルタワーのピアノ階段（高松市）

令和8年（2026）2月1日（日）～令和8年（2026）2月28日（土）

コラム7 ネーミングライツについて

ネーミングライツとは企業名や商品名等を冠した愛称を付与できる権利（命名権）を付与する代わりに、権利を取得した法人等(パートナー)から対価(命名料等)を得て、施設の運用・管理及び利用者のサービス向上を図るものです。

佐賀市文化会館では、本市で初めてこのネーミングライツを導入し、令和8年(2026)2月から「ミズ ウェルビー ホール」という愛称を使用しています。この名前には、ホールを訪れる皆さんが心も身体も健やかになり、佐賀の未来が発展するようにとの願いが込められています。

今後は、パートナー企業とともに、このエリアがさらに賑わい、親しまれる場所となるよう、さまざまな取組みを進めていきます。

(3) 最新の情報テクノロジーを駆使した「情報力」の強化

文化のまちづくりを進めるためには、市民一人ひとりの文化意識を高める必要があります。目まぐるしく進歩を続ける最新の情報テクノロジーを取り入れ、文化芸術や文化財に関するさまざまな情報を積極的に提供・発信、そして活用することにより、意識向上に努めます。

主な取組み	内容
「情報力」の強化	最新の情報テクノロジーを取り入れ、佐賀市の文化情報を収集・集約・整理（アーカイブ）し、共有・活用するための基盤となる、新たな情報連携のしくみを構築します。
ストーリー性のある情報の提供	市内各所にある文化施設や文化財の個別の情報を繋ぎ、相互に関係を補完しながらそれぞれの魅力を発信するなど、背景にストーリー性を持たせた情報発信を行います。
SNS等を活用した文化情報のプロモーション	SNSをはじめとするさまざまな情報媒体を活用し、本市の魅力的な文化を市の内外に発信します。